

# 高鍋町立小・中学校 耐震診断結果一覧

(平成23年3月1日現在)

学校名	名称	棟番号	建築年月	面積	構造 ※1	階数	耐震基準 ※2	耐震診断 実施年度	Is値 ※3	C <sub>TU</sub> S <sub>0</sub> 値※4 (q値)※5	耐震補強の 要・不要	緊急度 ランク	優先度 ランク	備考
東小学校	管理教室棟	1-1	昭和34年3月	658	RC造	2	旧	H20	0.82	0.64	不要	⑦	-	第1棟
		1-2	昭和35年3月	767										
	普通教室棟	2-1	昭和39年6月	733	RC造	2	旧	H20	0.80	0.88	不要	⑦	-	第2棟
		2-2	昭和40年4月	584										
	普通教室棟	3-1	昭和42年3月	1,103	RC造	2	旧	H20	0.78	0.52	不要	⑦	-	第3棟
		3-2	昭和43年3月	591										
	屋内運動場	18	昭和44年3月	824	RC造 一部S造	1	旧	H16	RC造 1.40 S造 0.85	RC造 0.94 S造 2.52(q値)	不要	⑦	-	体育館
	給食室	21-1	昭和54年3月	204	RC造	1	旧	H22	1.15	1.19	不要	⑦	⑤	
普通教室棟	23	昭和56年3月	1,430	RC造	2	旧	H20	0.54	0.55	要	⑤	-	第4棟	
西小学校	管理教室棟	1-1	昭和36年3月	656	RC造	2	旧	H20	0.77	0.57	不要	⑦	-	第1棟
		1-2	昭和37年5月	596										
	普通教室棟	2-1	昭和44年3月	1,274	RC造	2	旧	H20	0.53	0.57	要	⑤	-	第2棟
	屋内運動場	14	昭和48年1月	642	RC造	1	旧	H16	0.79	0.84	不要	⑦	-	講堂
	普通教室棟	20	昭和55年3月	1,452	RC造	2	旧	H20	0.99	1.01	不要	⑦	-	第3棟
	機械室	22-3	昭和61年11月	38	RC造	2	新	-	-	-	-	-	-	第3棟空調機械室
	給食室	25	昭和56年1月	201	RC造	1	旧	H22	1.49	1.52	不要	⑦	⑤	
東中学校	管理教室棟	1	昭和45年3月	1,677	RC造	2	旧	H17	0.81	0.82	不要	⑦	-	北校舎
	普通教室棟	2	昭和46年3月	1,989	RC造	2	旧	H19	0.67	0.71	要	⑥	-	南校舎+渡り廊下
	屋内運動場	6	昭和47年3月	720	RC造 一部S造	1	旧	H16	RC造 0.78 S造 0.72	RC造 1.17 S造 2.19(q値)	不要	⑦	-	体育館
	格技室	12	昭和61年12月	348	S造	1	新	-	-	-	-	-	-	
	特別教室棟	13	昭和63年2月	521	RC造	2	新	-	-	-	-	-	-	多目的室棟
西中学校	普通教室棟	12-1	昭和47年1月	879	RC造	2	旧	H20	0.77	0.38	不要	⑦	-	北校舎
		12-2	昭和48年3月	787										
	管理教室棟	12-3	昭和48年3月	205	RC造	2	旧	H20	0.80	0.27	要	⑥	-	管理棟+渡り廊下
		13-1	昭和48年1月	277										
		13-2	昭和50年2月	1,172										
	屋体兼講堂	20	昭和58年2月	856	RC造	1	新	-	-	-	-	-	-	
	普通教室棟	21	昭和61年2月	976	RC造	2	新	-	-	-	-	-	-	第3棟
	武道場	25	昭和63年3月	454	S造	1	新	-	-	-	-	-	-	
部室	26	平成4年2月	300	S造	2	新	-	-	-	-	-	-		

対象となる建物…非木造の校舎等で2階以上又は延床面積が200平方メートル以上の小・中学校の校舎等

※1 構造 RC造…鉄筋コンクリート造、S造…鉄骨造

※2 耐震基準

旧…旧耐震基準（昭和56年以前に建築した校舎等で建築基準法上、旧耐震基準に適合したもの）

新…新耐震基準（昭和57年以降に建築した校舎等で建築基準法上、新耐震基準に適合しているもの）

※3 Is値（構造耐震指標）

建築物の耐震性能（地震に対する安全性）を数値化したもの。

Is値が0.3未満…大規模な地震に対し、建物の倒壊又は崩壊の危険性が高い

Is値が0.3以上0.6未満…大規模な地震に対し、建物の倒壊又は崩壊の危険性がある

Is値が0.6以上…大規模な地震に対し、建物の倒壊又は崩壊の危険性が低い

学校施設については、耐震診断の結果、Is値0.7未満の建物が耐震補強の対象となる。

※4 C<sub>TU</sub>S<sub>0</sub>値

建物形状と累積強度により地震による水平方向の力に対して、建物が対応する強さを表すもので、その値が大きいほど良い。

Is値が高くてこの値が低い場合は安全としない目安で、0.3以上を安全とします。

1.25以上ではIs値が低くても安全とし、0.3未満ではIs値を満足しても安全としません。

※5 q値（保有水平耐力に係る指標）

保有水平耐力に係る指標で、1.0以上であれば倒壊や崩壊の危険性が低く、1.0未満では危険性があるとされる。

※6 耐震補強の要・不要

要…診断の結果、耐震補強が必要 不要…診断の結果、耐震補強が不要

※7 緊急度ランク

耐震診断の結果算出されたIs値及びC<sub>TU</sub>S<sub>0</sub>値又はq値に基づき、①～⑦の7段階に判別して建物の耐震化事業の緊急性を判断する。

その数値が低いほど緊急性が高くなる。（⑦は緊急性なし）

※8 優先度ランク

どの学校施設から耐震診断を実施するべきか、その優先度を検討することを主な目的として実施する優先度調査の結果、①～⑤の5段階に判別される。

その数値が低いほど優先度が高くなる。